JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka
Campus Magazine

vol. 51
2022 Spring
Joyama通信
福岡教育大学広報誌

特集1
教員採用試験合格状況

特集2
福岡教育大学の今

特集3
福教大生が世界で魅せた！東京2020パラリンピック銅メダリスト 瀬戸勇次郎さんインタビュー

国立大学法人
福岡教育大学

特集1

教員採用試験合格状況

Joyama 通信 Joyama News
福岡教育大学広報誌
University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine
vol.51

CONTENTS

02 特集1
教員採用試験合格状況
09 サークル紹介
手話サークル Sign
ボート部
10 特集2
福岡教育大学の今
14 特集3
瀬戸勇次郎さんインタビュー
18 福教大NEWS
20 教員紹介
&学生から見た先生の魅力
21 第28回 福教大卒OB&OG紹介
飯塚市立 小中一貫校 飯塚鎮西校
飯塚市立飯塚鎮西小学校教諭
田中 由美さん
22 TOPICS
23 キャンパスからの便り

昨年度のごあいさつで、「今回学んだこと「チャレンジのあとに成長あり、成長のあとにチャレンジあり。」これからもみんなでチャレンジしていきましょう。」と述べさせていただきました。今年もそのことばどおりにチャレンジできた一年だったと思っています。本年度も、コロナ禍の厳しい環境の中、本当に多くの学生のみなさんが心折れることなくチャレンジし「教員になるという夢」を実現しました。

もちろん、チャレンジは常に成果となって現れるわけではありません。残念ながら現役合格をつかめなかった学生のみなさんもいます。「チャレンジのあとに成長あり」です。みなさんは今回のチャレンジで大きく成長しているはずです。ぜひ、この成長を次の一歩につなげてください。みなさんの一歩は、将来につながっています。キャリア支援センターでは、あなたの次の一歩をしっかりとサポートする準備があります。ご活用ください。

教員採用試験合格は、終点ではありません。むしろ、教師として、社会人として、自分のキャリアをどう形成していくのか、未来へのスタート地点といえます。これから、「どんな人生を送っていくのか」、「どんな教師になりたいのか」、「自分にとっての幸せとは何か」、そういったことを考えることに価値があるのではないでしょうか。未来を生きるみなさんには、ぜひ希望をもって次の一歩を踏み出してほしいと思っています。

最後になりますが、いつも最前線であたたかく学生のみなさんをサポートしてくださる「就職支援アドバイザー」や特命教授のみなさま（本学では、教職経験のある10名の先生方が活躍されています）にこの場を借りて感謝申し上げます。

キャリア支援センター長　生田 淳一

今年度は、平成28年度学部改組（全学で生涯課程を廃止し、教員養成課程に特化）後の4年生が受験する3度目の年でした。出願者数は例年並みでしたが、結果は、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、前年度に引き続き多くの合格者を出すことができました。特に今年度は、中学校、高等学校区分の合格率が高く、また、九州・沖縄地区以外を受験した学生の合格者数及び合格率が昨年以上の結果となっています。

今年度も、新型コロナウイルス流行の影響により、試験内容や実施方法の変更が多く見受けられ、感染拡大防止の観点から、試験当日は検温やマスク着用、アルコール消毒などが実施されました。教育委員会によっては昨年度に引き続き、集団討論や集団面接、適性検査などが中止されています。本学の学生もそのような現状の中、日々の努力が実り、過去最高の合格者数及び合格率となりました。〔表1 、表2〕

〔表1〕平成31（令和元）～令和3年度実施公立学校教員採用試験の校種別合格状況

（令和4年1月21日現在）

	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合　計				
実施年度	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R3	392	371	316	80.6	133	112	77	57.9	68	41	15	22.1	53	51	36	67.9	646	575	444	68.7	408
R2	369	346	283	76.7	143	105	71	49.7	76	33	13	17.1	70	62	48	68.6	658	546	415	63.1	380
H31（R元）	369	309	272	73.7	131	94	58	44.3	76	41	15	19.7	69	62	43	62.3	645	506	388	60.2	380

（注１）出願者数：併願を含む　（注２）最終合格者数：複数合格を含む

〔表2〕自治体別公立学校教員採用試験合格者　内訳

（令和4年1月21日現在）

自治体 / 実施年度	九州・沖縄											小計（九州・沖縄）
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
R3	153	53	74	10	18	18	6	7	12	17	5	373
R2	169	69	54	19	15	10	9	10	11	5	2	373
H31（R元）	197	32	37	15	15	14	3	10	8	3	2	336

	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	高知県	神戸市	横浜市	静岡市	他	合計（全国）
R3	11	17	4	4	1	12	1	2	3	3	13	444
R2	12	17	2	1	1	2	1	0	0	2	4	415
H31（R元）	13	13	3	3	1	3	2	0	0	2	12	388

※延べ人数

教員採用試験 合格者の声

Successful examinee's message

福岡県教員採用試験
小学校 合格

初等教育教員養成課程 4年

倉石（くらいし） 奏良（そら）さん

福岡県立田川高等学校出身

同じ志を持ったクラスの仲間との出会い

①福教大での学びについて

私は、来年の4月には中学生の頃からの夢であった教員として働くことになりました。私が教員になることができたのも、福岡教育大学での日々の学習、大学生活4年間での様々な経験など多くの要因が考えられます。

これまでの出会い

その中でも特に採用試験合格に強く影響しているのは、大学で出会った同じ志を持った仲間を含め、これまでの22年間を通してのさまざまな出会いだと思います。

教員という夢を持つこととなった小学校での恩師との出会い、応援してくれる中学・高校時代の友達、模擬授業の練習など試験対策を共に頑張った大学の友人、福岡教育大学の先生方。このように様々な出会いがあって今の私が存在し、教員採用試験に無事合格することができました。

選択

私が福岡教育大学に進学しようと決めたのも、夢を持つきっかけとなった小学校5.6年生の時の担任の先生の出身校であったという理由からです。高校に関しても、福岡教育大学に入学するということを見据えて、地元の進学校を選択し入学しました。

思えば数多くの選択を迫られ、その度に私は結果的に常に良い選択をしてこれたのだと思います。

それは大学に入ってからも同じことで、実習校に関しては、小倉・久留米・福岡の各附属小学校の中から選択して行き、授業一つにしても自分が取りたい授業、自分に必要な授業を選択してきました。一つ選択が違っていれば、出会うはずだった今の友人とは出会っていないかもしれないし、お世話になったあの先生からは何も教えて貰えてなかったかもしれません。

採用試験についても同様に、福岡県の採用試験ではなく、他の地域の試験であったらうまくいっていないかもしれないですし、中等の採用試験を受けていたら…など多くの可能性が考えられますが、私には選択の余地がありました。

しかし、それは決して当たり前の事ではありません。

このコロナ禍の影響により、子どもの頃からの夢であった職業がちょうど新規採用をストップしている。最初から選択肢すらなく、面接も書類選考も受けることさえできない。やりたくてもやれない。という人も私の知人にいます。

やりたいことが、夢が、目標が、すぐ手の届くところにあるみなさんは、あとは自分がやるかやらないかだと思います。私は同じ志を持つ仲間と励まし合いながら勉強し、無事合格することが出来ました。どうか努力を怠ることなく、その夢に向かって頑張るという選択をしてみてください。

②教員として働くことへの意気込みについて

やはり、教員として働くということに対して不安や焦りは多くあります。しかし、それ以上に4月からの子どもたちとの出会いに胸を膨らませています。日々の大学の授業で学んだこと、教育実習で、先生方から教わったこと、これまでの自分の経験などを活かして子どもたちに真摯に向き合っていきたいです。また、子どもたちの成長を一番身近で感じることのできる教員として、温かい心、偽りのない心で子どもたちに接し、自分自身も子どもたちと共に成長していく教員を目指していきます。一年目でうまくいかないこともあるとは思いますが、先輩の先生方から学び、福岡教育大学で出会った仲間たちと切磋琢磨して、常に「子どもたちのため」を考える教員となるべく精進していきます。

母校実習での出会い

サークルでの出会い

附属実習での出会い

熊本市教員採用試験
中学校技術 合格

中等教育教員養成課程技術専攻 4年

押川 裕翔（おしかわ ゆうと）さん

熊本県立第二高等学校出身

情報工学研究室の集合写真

①福教大での学びについて

福岡教育大学では充実した学生生活を送ることができました。特に中等教育教員養成課程技術専攻での学びは大変充実していました。また、技術専攻は同学年だけでなく、先輩後輩、先生方との距離が近く、行事や研修等を通して親睦を深めてきました。技術専攻では木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報、技術・工業科教育、職業指導の８つの専門領域から構成されており、それぞれの領域から技術の本質に迫っていくような授業が展開され、知識・技能を習得することができたので、福教大技術専攻に入学して良かったと感じています。

教員採用試験対策

私が本格的に教員採用試験に向けて対策を始めたのは、３年生の10月頃でした。対策をするにあたっては、私が所属している情報工学研究室の白石正人教授やキャリア支援センターの先生方に大変お世話になりました。

一次試験に向けては、私が所属している研究室では、1週間に20ページのノート課題があり、過去問分析から始め演習を多く積んでいきました。使用したノートは20冊以上にもなり、教員採用試験を迎えるにあたって「これだけ勉強をしてきたんだ！」と自信にも繋がりました。

二次試験に向けては、キャリア支援センターが開講している特別講座への参加や研究室での練習を行い対策していきました。主に面接と模擬授業をご指導いただきました。私は特に面接に自信がなかったため、とにかく量を熟して自信をつけていきました。そして、自信がついた後にご指導いただいたことや面接練習をした友人の気づきやアドバイスを発言の中に取り入れるなどしてブラッシュアップしていきました。

よく勉強は「量よりも質」と耳にします。しかし、私はこの言葉の前に、まずは量を熟す必要があると思っています。確かに効率を重視すると「量よりも質」という表現になると思いますが、量を熟していかなければ自分の苦手とするところが分からないままになってしまい、対策を立てるのが難しくなると思います。私はこの考えを基に教員採用試験の対策を計画し、実行していきました。量を熟すことは非常に時間がかかり、大変だとは思いますが、勉強するにあたって消費したノートやボールペンの数、印刷したプリントを振り返るとそれは自分にとって大きな自信に繋がると思います。

これから教員採用試験に向かって走り出すみなさんには、まずは量を熟すところから始めて、同じ志を持つ友人と切磋琢磨しながら頑張ってほしいと思います。

②教員として働くことへの意気込みについて

私は４月から熊本市の中学校技術科の教員になります。今は不安な気持ちもありますが、大学の授業や教育実習で学んだことがどれくらい現場で活かせることができるのか楽しみにしているところもあります。

今の教育現場では、プログラミング教育の必修化が決まったことやGIGAスクール構想が打ち出されたことなどから、ICTの活用が強く求められています。私は、大学生になって授業や研究室で情報機器（パソコンやiPad等）について学習し知識・技能を習得してきました。まだまだ至らないところはありますが、大学で培ったこの強みを充分に活かしながら学級経営や教材開発に力を注いでいきたいです。

技術専攻の集合写真

技術専攻スポーツ大会

教員採用試験 合格者の声

Successful examinee's message

宮崎県教員採用試験
特別支援学校知的他 合格

特別支援教育教員養成課程
初等教育部 視覚障害児教育コース 4年

なかむら　あやか
中村 彩楓さん

宮崎県立宮崎大宮高等学校出身

①福教大での学びについて

授業・教育実習

私は、特別支援教育教員養成課程に所属しており、その中でも視覚障害児教育を専攻しています。実際に視覚支援機器を見たり触ったりする機会や、療育に来ている幼児の視機能を高めるための支援をする機会等があり、専門的な知識を身に付けることができました。3年次の教育実習では、見えないという障害から生じる困難を想定しながら授業を工夫し、将来の自立や社会参加という視点をもって接しました。教育実習を通して、個に応じた指導・支援を行うことの難しさや面白さを実感し、改めて特別支援学校の先生になりたいと強く思うようになりました。

課外活動

障害のある子どもたちを対象としたボランティア活動が数多くあり、できる限り参加してきました。はじめは何の知識もない状態だったのですが、先輩方から少しずつ子どもとの接し方を教わり、実践的な経験を積むことができました。また、大学の授業で学んだことが実践に結びついたり、反対に実践で学んだことが授業に結びついたりするところが非常に面白く、楽しみながら特別支援教育を学ぶことができました。

2年次には、肢体不自由児を対象とした療育キャンプの運営スタッフを務めました。約半年間にわたる準備期間で、主催者や同じスタッフ、そして参加する学生との話し合いを重ね、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう努めました。約80名の大きな集団をまとめるという貴重な経験をさせていただき、非常に多くのことを学びました。

教員採用試験対策

私が教員採用試験に合格できた背景には、同じ志をもつ友人の存在があります。勉強していた時期を思い返すと、私一人では絶対に合格できなかったと断言できます。私は、一人では勉強に集中できず、100%の力で頑張り抜くことができないと思い、友人と一緒に毎日勉強しました。勉強が嫌になるときもありましたが、お互いに問題を出し合ったり励まし合ったりする時間や、隣を見ると頑張っている友人がいるという状況が、勉強する意欲につながりました。合格したことはもちろん嬉しかったのですが、それ以上に、友人と2人で切磋琢磨し頑張り抜いたという事実そのものが、私の人生の宝物になりました。

友人との旅行

②教員として働くことへの意気込みについて

私は、春から特別支援学校の教員になります。子どもの人生の一部にかかわるという責任は、言葉で表すことができないくらい大きく、不安な気持ちでいっぱいです。しかしそれと同時に、どんな子どもたちに出会えるのだろう、自分の専門性をどのように高めることができるのだろう、と思うと楽しみで仕方ありません。私は、子どもと接すること、子どもの指導・支援内容を考え、実践することが本当に大好きです。その気持ちを大切にしながら、これから出会う子どもたちが楽しく学校に通うことを通して、自立し、社会参加できる力を身に付けることができるように、私自身も日々学び続け、これからの教員生活を最高なものにしたいです。

ボランティアスタッフの仲間

教育実習での教材研究

ボランティアの事前学習

社会福祉法人四季の会
花鶴どろんここども園
保育教諭採用

初等教育教員養成課程 幼児教育選修 4年

ながの　みゆ
永野 美佑さん

宮崎県立宮崎大宮高等学校出身

幼児教育選修集合写真

①福教大での学びについて

幼児教育選修での学び

私は幼児教育選修の少人数で温かな雰囲気の中で4年間過ごしました。幼児教育選修では座学に加え、隣接する福岡教育大学附属幼稚園等での保育実践を通して、幼児教育に関する知識や援助のあり方、幼児教育に携わる者としての姿勢を学ぶことができました。

課外活動

私は幼稚園や保育施設でのボランティア活動のほかに、放課後等デイサービス事業所での学習支援のボランティア活動にも参加しました。そこでは子どもたちのこころと学習のサポートを基本的に一対一で行います。一人の子どもと長期的にじっくり関わることで、子どもと信頼関係を築くことが何より大切だということを学ぶことができました。また、毎回活動を振り返る中で子どもの言動の背景を考えるようになりました。子どものおかれている環境やその時の気持ちを踏まえた支援はまだ十分にできませんが、保育教諭として働くうえでの課題の一つとして今後も考え続けたいと思います。

就職活動、情報収集の方法、時期について

私は福岡県で就職しようと考えていたので、幼児教育選修に届く求人情報を中心に3月から情報を集めました。一般的に、保育施設における就職活動の開始時期は5月頃と聞いていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で行動が制限されることが考えられたので、早めに行動しました。求人情報から、園のホームページで園の特色や保育内容について調べ、気になった園に連絡をして見学に行きました。園のホームページから受ける印象と、実際に園に見学に行って受ける印象が同じであるとは限らないので、早めに情報収集をして見学に行くといいと思います。

就職試験対策

私が採用試験を受けた園は試験内容が面接のみでした。採用試験を受ける前にその園で実習を行っていたので、実習での気づきと関連させながら志望理由や大学での学びについて考えをまとめました。大学での学びを振り返るにあたって、教育実習や課外活動での経験が自分の視野を広げてくれていることに気付き、自信をもって試験に挑むことができました。

②幼稚園教諭を目指す後輩に一言

私は春から認定こども園で保育教諭になります。4年間の大学生活で同じ志を持つ仲間と出会い、ともに学びあう中で多くの刺激を受けました。春から始まる新生活に不安はありますが、大学での学びをもとに保育者として成長し続けたいと思います。

幼児教育選修では附属幼稚園での実習だけでなく、他園でのボランティア活動やアルバイト等で保育と関わる機会があると思います。実際に園に行って保育に参加してみると、園によって雰囲気が異なると思います。様々な保育に触れることは、自分はどんな保育がしたいのか、どんな保育者になりたいのか考えるいいきっかけになると思います。ぜひ興味のある活動に積極的に参加してみてください。

オープンキャンパスの準備

幼児教育選修のボランティアメンバーと

幼児教育選修のみんなで泥団子づくり

教員採用試験合格に惜しくもあと一歩届かなかった人へ

井ノ口就職支援
アドバイザー

教員採用試験合格を目指してがんばってきたが、惜しくもあと一歩届かなかった人もいます。
大切なことは、まずここで教師を目指す気持ちや信念をもう一度確かめることです。
そして、自分の課題はどこか、何を伸ばせばいいのかという自己分析を改めて行うことです。
自分の目標をしっかり定め、具体的な方策を考えて実行していくことで、今後の生活がよりよい充実したものになると考えます。具体的な進路選択としては、下記のようなものがあげられます。

	それぞれのメリット	注意点
①講師になる	・収入がある ・現場で経験を積むことで教師としての実践力が付く(学級経営、指導力など)	・教員採用試験に向けた受験勉強の時間を作るのに努力や工夫を要する
②私立学校の教員になる	・収入がある ・勤務地が固定 ・現場で経験を積むことで教師としての実力が付く(学級経営、指導力など)	・一年間は講師として採用されることが多い ・転勤が少ない
③大学院へ進学する	・教職についての理論と実践が深く学べる ・教採への特例措置がある(試験科目の一部免除、合格後に大学院修了まで採用を待ってもらえるなど、自治体によって異なる)	・授業料が必要(奨学金を活用することも可能)

キャリア支援センターには講師等希望者名簿があります!

※連絡先変更や情報提供不要になったらキャリア支援センターへ連絡を!
TEL:0940-35-1249　FAX:0940-35-1759　E-mail:csc-jimu@fukuoka-edu.ac.jp

キャリア支援センターには、公立私立問わず学校等(教育委員会を含む。)から常勤講師、非常勤講師等の求人情報が多数届きます。そこで、キャリア支援センターでは、講師等希望者名簿を独自に作成し、登録者へ求人情報を提供したり、学校等に名簿登録者の情報を提供したりすることで講師等就職のサポートを行っています。もちろん、希望する教育委員会への講師登録が最優先ですが、上記の方法もありますので、卒業後の進路選択に役立ててください。

手話サークル Sign

特別支援教育教員養成課程初等教育部 聴覚障害児教育専攻3年
京松（きょうまつ） 真央（まお）

私たち手話サークルSign（サイン）は、来られるときに参加する自由参加型で手話を使ったコミュニケーション活動を行っています。

手話を学びたい、少し興味があるけれどなかなか地域のサークルには行きづらいという学生がいることを知り、今年度新しくこのサークルを立ち上げました。「手話」と聞いて難しそう、という印象をもつ人もいるかもしれませんが、慣れると本当に面白くて奥の深い言語であることが分かります。その面白さや音声以外でのコミュニケーション方法があることをたくさんの人にぜひ知って、感じてもらいたいです。

私たちは特支初等の3年生を中心に週1回活動をしていますが、学生同士のコミュニケーションだけでなく、ろう者の方に来ていただいてお話を聞いたり、声を使わずに手話のみで話したりする機会もあることが特徴です。特別支援教育教員養成課程の学生だけでなく、初等教育教員養成課程や中等教育教員養成課程のみなさんも大歓迎です！手話を使って、楽しくおしゃべりしてみませんか？

サークル紹介
CIRCLE INFORMATION

ボート部

初等教育教員養成課程 3年
古田（ふるた） 悠理乃（ゆりの）

私たちボート部は4年生7名、3年生15名、2年生3名、1年生8名の計33名で活動しています。

よく「ヨット部？」や「ボートってなに？」と聞かれますが、ボート競技とは1人乗りから8人乗りまであり、前後に動く座席に乗りオールで水をかき、脚力を中心に全身を使って船を進める競技です。仲間と息が合った時の船のスピード感、水上で風を切って進む感覚、漕ぎきった時の達成感、これらはボートを乗った人にしか味わうことの出来ない感覚です。

部員の9割が初心者で、バスケ、サッカー、ソフトボール、剣道、弓道、吹奏楽、百人一首など今まで経験してきた部活も様々です。みんな初心者だからこそ、運動が得意じゃない人も、運動が好きな人も、自分のペースに合わせて、一生懸命部活に取り組んでいます。

練習だけではなく、新入生歓迎会やスポーツ大会、スキー旅行など様々なイベントを開催し、楽しく活動しています。

少しでもボート部に興味を持ってくれた人はInstagram、Twitterで「福岡教育大学ボート部」と検索してみてください。ボート部の情報を随時発信しています。ぜひ水上でしか味わえない青春を一緒に過ごしましょう！

特集2

2022 福岡教育大学の今

グローバルな教員養成大学へ、確かな布石

福岡教育大学は、独立行政法人国際協力機構九州センター（以下、「JICA九州」という）との間で連携に関する覚書を結び、2021年6月30日に覚書締結式を挙行しました。
同覚書は、両機関のさらなる連携により、開発途上地域への国際協力事業の質の向上及び国際貢献、学術研究及び教育の発展に寄与することを目的とします。今後は、ESD（“Education for Sustainable Development”持続可能な開発のための教育）の推進を第一歩として、複数の連携事業を計画しています。

環境先進地の英知を還元する

――JICA九州は、1989年3月北九州市に設立されたと聞いていますが、これまでの沿革や歴史についてお聞かせください。

吉成所長　我が国は、1954年にコロンボ・プラン（注：第2次世界大戦後組織された開発途上国援助のための国際機関で、正式名称は「アジア及び太平洋の共同的経済社会開発のためのコロンボ・プラン」。主に技術協力を通じて、アジア太平洋地域の国々の経済・社会開発を促進し、その生活水準を向上させることを目的としており、1951年に活動を開始）に加盟し、技術協力を開始しました。以降、前身組織の統廃合を経て、1974年にJICA（当時の和名は「国際協力事業団」）が設立され、国際協力の実施機関として活動を展開してきました。設立当初は、JICAは青年海外協力隊の派遣を含む技術協力を行う機関であり、開発途上国に対する資金供与を行う機関は別に存在しました。

（1961年OECF（海外経済協力基金）設立、1999年JBIC（国際協力銀行）設立）今から13年前(2008年)に主に技術協力を行ってきた旧JICAと、JBICの海外経済協力業務および外務省の無償資金協力業務（の一部）が統合し、現JICAとなりました。現在のJICAは、開発途上国に対する技術協力と資金協力、その両方を総合的に行う唯一の機関となります。

今まさに、私どもにとっても、今年度が中期目標計画期間の最終年度です。来年度に向けて、次期中期目標計画を策定しているところです。その中でも、開発途上国への貢献は、当然に一番の柱となります。現代社会は、ボーダーレスといいますか、つまり、国内に居ても、国境を越えて、様々な海外の人々が入ってきますし、私たちも出ていくという時代になりました。その意味では、日本に入ってくる海外の人々、特に在住外国人の適切な受入に対しても、協力をしていくという新たな活動も検討しています。国際協力といっても、海外のみならず国内でも、現場が広がっていると思います。

JICAの国内拠点は、北海道から沖縄県まで14カ所あります。JICA九州は、歴史的に日本を支えてきた産業が集積する北九州市に立地し、九州7県を管轄しています。北九州市は、産業開発と、ものづくりで有名であり、さらに高度経済成長期に、公害の経験を克服しました。多くの開発途上国も同様の過程を経つつあることから、環境対策と、ものづくりを中心とした開発途上国への協力が、JICA九州の特色となります。

グローバル人材養成、その転機

――福岡教育大学における、これまでの国際交流の歩みについてお聞かせください。

飯田学長　本学の海外協定校は、韓国3校、中国1校、台湾1校、アメリカ2校、スウェーデン1校の計8校あります。これらの協定校へ学生を派遣したり、協定校から留学生を受け入れています。その他、例えば、教員研修留学生があります。海外の教師が本学に留学するものです。このように留学の在り方も多岐にわたっています。しかし、昨年から今日に至るまで、新型コロナウィルス感染症の拡大のため、渡航ができないケースも生じており、国際交流にとって困難な時期が続いています。

短期ボランティア派遣というと、タンザニアへの野球ボランティア派遣です。3年にわたりJICAの支援を受け、実施することができました。また、本学独自のものとして、2016年度から夏休みに実施している、カンボジアのボランティア研修があります。2020年度は、実施できませんでしたけれども、学生が現地小学校のボランティア活動に参加したり、地雷被害者へのインタビュー等を行いました。他方、2018年度より、春休みに実施しているミャンマーのインターンシップ研修があります。昨年度は未実施でしたが、今年の3月にリモートで実施したところです。リモートで繋がることで、英語と日本語を使う形で、現地小中学校での模擬授業を体験しました。学生にとって、とても貴重な経験だったと思います。タンザニアの野球ボランティア派遣は、JICAの大学連携事業（スポーツ分野）の公募に、本学が申請して、採択していただきました。その後、覚書を締結して、2018年から3年間にわたり派遣したわけです。例年2月から3月にかけての約4週間、計20名の学生を派遣する事業を無事終了しました。報告書を見ていますと、主に本学から派遣した学生は、体育教師を目指す学生が多かったと思いますし、野球部の学生もいたと思います。いずれにしても、学生は教師の卵ですから、タンザニアに行って、経験者の指導をする場合もあっただろうし、全く初めての子供には野球の面白さを教えることもあったようです。子供たちが喜んでいたようですから、教師を目指すうえで、学生は本当にいい経験を積んだと思いますね。本学には、様々な教科を専攻している学生もいますし、多様な得意分野を持っています。開発途上国の中には、教科が十分に備わっていない国もあるでしょうから、学生がお役に立てることも多いかと思います。ボランティア派遣という形で、国際協力に参加した実績というものが、今回の覚書を締結するうえで、一つの大きな契機ではなかったかと思います。

それともう一つ、JICA研修員との交流会です。JICA研修員の方々が、本学に視察にいらしたことがありました。これからも、より充実させていきながら、学生との交流を継続させていただければ嬉しいです。交流会では、日本事情とか日本文化を紹介したり、教育に関するグループディスカッションを行いました。例えば、学生が、七夕の短冊や折り紙とか、書道などの日本文化を紹介するなど、JICA研修員をお迎えするにあたって、随分工夫を凝らしたようですね。さらには、教育に関するディスカッションでは、義務教育や食育などについて話し合ったということです。日本では当たり前なことが、開発途上国では当たり前ではないことが結構あります。その一つが学校給食で、海外の方々が、とても驚かれることがあります。また、学校の掃除です。児童生徒が掃除するといったことも、日本特有なことです。

JICA九州と連携することで、日本に居ながら、福岡に居ながら、海外の人々との交流ですとか、国際理解ですとか、多文化交流ですとか、外国に行かなくても、体験できることもあると思います。本学

の方向性と、JICA九州の方向性が一致することで、Win-Winな関係を築くことができるのではないかと思い、これまでもこのような実績を積み重ねてきました。

それともう一つ、ESDですね。本学は、現場の教師に対して研修会を企画・実施してきました。学習指導要領の中にも、「持続可能な社会の担い手の育成」と謳っており、ESDの必要性が高まってきています。これは、大学での科目だけではなくて、小学校にも中学校にも高等学校にも、そういう取り組みが必要になってくるわけですから、現場の先生方への研修が大切だと思います。

このようなところにまた、JICA九州のお力をお借りすることができればと思って、これまでの実績として紹介をさせていただきました。

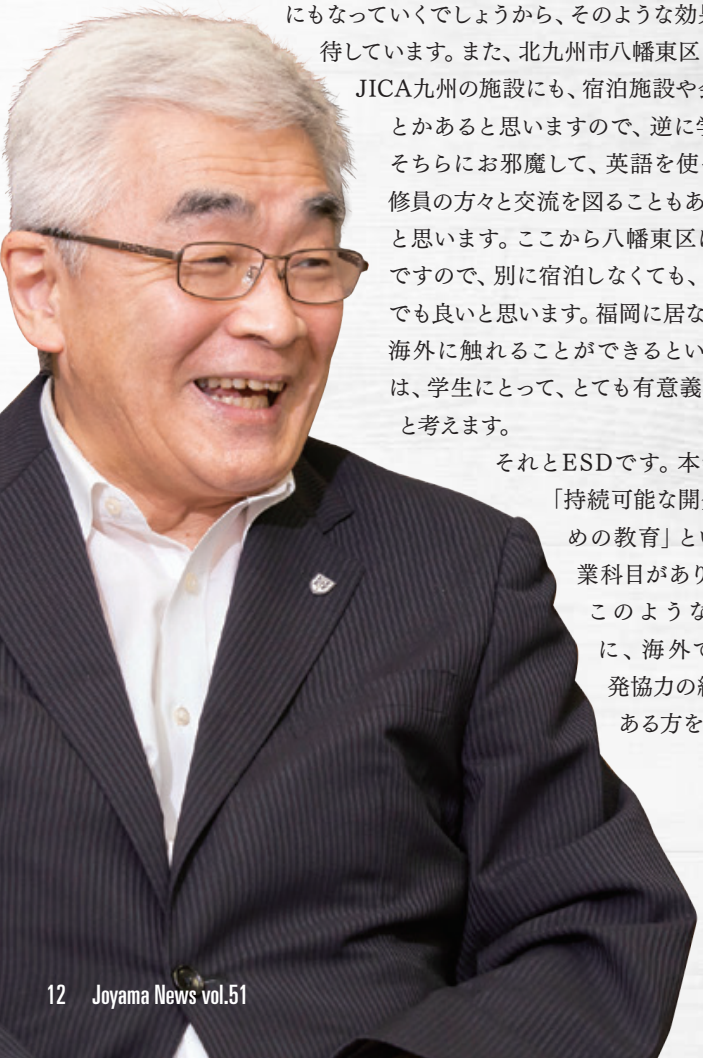
シナジーの果実を享受する

――本日覚書を締結したわけですけど、今後の連携事業の具体的な取組についてお聞かせください。

飯田学長　海外ボランティア派遣の件ですけど、体育だけではなく、音楽や技術とか、開発途上国の中には、そのような教科の取組がないような国もあろうかと思います。そのような国へ、もっと学生を派遣できれば嬉しいです。学生は、教師の卵ですから、このような経験が必ずや将来役立つことと信じています。

先ほど所長が、海外に行くだけではなく、福岡に居ながらにして、国際理解や多文化交流ができると仰いました。連携事業の一つとして、JICA研修員の方々との交流が挙げられます。

その方法の一つとしては、本学施設の活用があります。国際交流ができるスペースを作って、留学を希望する学生や、海外ボランティアを希望する学生が集える環境を整備していきます。時には、JICA研修員の方々をお招きして、英語を使って交流ができれば、留学に行くための英語力にもなるでしょうし、将来教師になるための英語力にもなっていくでしょうから、そのような効果を期待しています。また、北九州市八幡東区にあるJICA九州の施設にも、宿泊施設や会議室とかあると思いますので、逆に学生がそちらにお邪魔して、英語を使って研修員の方々と交流を図ることもあろうかと思います。ここから八幡東区は近いですので、別に宿泊しなくても、日帰りでも良いと思います。福岡に居ながら、海外に触れることができるということは、学生にとって、とても有意義であると考えます。



それとESDです。本学では「持続可能な開発のための教育」という授業科目があります。このような授業に、海外での開発協力の経験がある方をゲストティーチャーという形で招いて、本学の教育にも関わっていただくとありがたいです。また本学は、小中学校の教師向けに開いているESDセミナーを実施しています。SDGsの中には、「質の高い教育をみんなに」という目標があります。JICA九州に様々な人材を紹介していただいたり、JICAの方にも参画していただいて、ESDを充実できると嬉しいです。本学は、教員養成大学ですので、学生とか附属学校の児童生徒、幼児に対して、ESDを充実することはもう言うまでもないですけど、公立私立の小中学校でもESD研修を実施することは、本学の大切なミッションのひとつではないかと思います。国境や国籍を超えた多様性を踏まえた教育、そして、その充実こそが今求められていることであり、本学の教育に取り入れることが大切であると考えます。

吉成所長　非常に前向きなご提案をいただきまして、本当にありがとうございました。タンザニアの野球指導では、継続的な取組として、貴学にプロジェクトを動かしていただきました。私どもの中でも、日本人が支援したタンザニア野球は有名です。その中核を貴学が担っていただいたものだと思います。これはタンザニアで野球をやっている若者、まさに国の未来を担う若者に対して、技術のみならず、人格を育成していただいたと思います。要は、野球を通じて、ルールを守ることは、当たり前ですけども、なぜルールを守らなきゃいけないのか、ルールを守るとどうなるのか。次に、チームワークを大切にすれば、成果が出せるということを、総じて野球指導を通して伝えていただいたのだと思います。

それは、タンザニアの若者にとっては、将来どんな職場に行っても、チームワークや規律を大事にして働く。そうすると、成果が出せるという働き方にも繋がってきます。貴学の学生の方々がすごく上手い教え方をして、指導されたという話を聞いております。まさにスポーツを通じた、開発途上国の若者の人材育成であり、教育そのものだと思います。

よく世界の人たちから日本人の美点の一つだと言われていることは、Discipline（規律）を大事にするということです。本事業は、スポーツを通じて、多様性を尊重しつつ、それを伝えている象徴的なプロジェクトであると思っています。今後も、そのような活動を一緒に広げさせていただければありがたいと思います。

また、日本は少子高齢化に伴う人口減少に直面しており、また世界経済における日本の位置づけも過去に比して相対的に低くなっています。今現在もそうですが今後もより一層、日本は日本人だけでは成り立たない時代になっていくと思います。そうした中で、海外で活躍する専門家のみならず、日本で、世界を視野に入れて、地域を活性化させていく人たちに対して、私どもが何かアプローチしていきたいということがもう一つのチャレンジになっています。そうしたときに、まさに将来人を育てる教師の卵を教育している、貴学の力が必要です。どのように多様性や多文化共生を児童や学生に伝えていけばよいか、より教育学的に適切なアプローチになるのか。私たちは多文化共生のパンフレットや教科書を作っていますけど、それらが科学的に有効であるか、助言いただければ非常にありがたいと思います。

最後に海外に向けてのお話です。先ほど学長もおっしゃいましたが、世界、特に開発途上国では、日本型教育に対するリスペクトがあり、そのニーズは、すごく高いのです。今、おっしゃったミャンマーですけども、数年前ですが、日本政府に対して、ミャンマー政府が教科書づくりを手伝ってほしいという要請がありました。なぜかと言うと、ミャンマーの教育は、どちらかというと詰込型の教育であり、子どもたちに知識を暗記させることに偏重しています。一方、日本型教育は、考えて

能動的に学ぶという教育方針です。先ほどおっしゃった掃除も含めた特別活動も外国からみるとユニークな教育手法です。また、理数科教育も考えさせるという日本型教育であり、非常に世界からのニーズが高いというのが実情です。

世界からの日本に対する、そのようなニーズは、今後まだまだ続くと思います。開発途上国も成長するにつれ、教育の質を上げるという要請が高まります。国際教育の観点から、教育のプロフェッショナルである貴学には、可能な範囲で、ご協力いただければと思います。

飯田学長　実は、理数科教育ということからすると、私は数学教育が専門であり、アフリカのガーナに2000年に3週間、2001年1週間、JICAの事業に参加しました。現地では、教員研修というのが全く存在しなくて、教師は、他の教師に自らの授業を見せたことがないという状況でした。教員研修ということが、根付いてない国に行って、研修をどうやってやるかということですね。ガーナの教育は、詰込み型で、教科書もそのようなものでした。そこで、日本の教科書を英訳して紹介すると、考えさせることを踏まえた教科書になっていることが分かるのですよね。日本へのリスペクトに繋がるということを、さっきおっしゃったので、そのことを思い出しました。そういうことが直ぐにできればいいのですが、本学は全学的に協力ができるかというところまではいっておりませんで、今後検討を進めてまいりたいと思います。

吉成所長　今申し上げましたとおり、非常に総論的ではありますけども、世界全体が加速度的な変化の時代にあるなか、JICAもその変化に柔軟な形で活動していきたいと思います。そういう意味では、今国内の学校でも、外国籍の子供がいる状況もあろうかと思います。JICAも、またそういう事案に対しても、新たに対応していくような時代になってきております。そういう国内における外国籍の人々と、どのようにより良く共生していけるかというところも、一緒に連携させていただきたいと思います。

飯田学長　留学やボランティアの経験っていうのも、利点の一つは、やっぱり英語力がついてくるところです。小学校では、教師が全教科を教えますから、英語も教えられる先生っていうのが求められてくるわけです。英語の授業を担当するだけではなくて、所長がおっしゃったように、自分の学級に外国籍の子供が入ってきて、その子は日本語を十分に喋れない。保護者の方も、まだ十分に喋れないで、どちらかというと保護者よりも、子供の方が喋れるようになることがあります。そういう場合にも、保護者といろいろなことを話し合うために、小学校教師は、ある程度の英語力を具えておくべき時代に入ってきたということが実感です。日本の中で、いろんな国籍の方と共存していく。共生していくことに対して、日本が今から変わっていかなきゃならないということだと思います。教員養成も同様であり、これから私達が教師を送り出していくときに考慮していかないといけないことだと思っています。今所長がおっしゃったことは、教員養成にも、とても関係することだと思いました。

国づくりは人づくり、私たちの使命

――連携事業を通じて、JICA九州と福岡教育大学における、今後の展望についてお聞かせください。

吉成所長　先ほど、ESDやSDGsというキーワードを共有させていただきました。世界から見たときに、日本人は、相手を尊重して、一緒に考えて、行動していくという評価を受けていると思います。そのような行動特性を育んできたのは、無論、教育です。今回、初めて教員養成大学と連携覚書を締結させていただきました。この関係を活かし、貴学と協働させていただきながら、持続可能な社会、また寛容な社会の構築に繋げていけるように、連携の成果を追求していきたいと思います。

飯田学長　JICA九州との関係性を構築することで、開発途上地域への国際協力事業の向上とか貢献に参加させていただきたい。学生のボランティアだとか、本学学生のためになることを、まずは優先させていただいて、始めさせていただきたいと思います。

もう一つはESDです。本学の使命で、本学及び附属学校の教育を改善することもいうまでもなく、本学以外の小中学校のESD充実、日本ではユネスコスクールという取り組みを実施している学校も多いです。その成果を踏まえた形でのセミナーだけではなくて、JICA九州にご協力いただきながら、国際理解や多文化共生を図るような形での小中学校のESDというものも、とても大切だと思います。JICA九州のご意見をいただきながら、ESDの充実も行いたいと思います。

よしなり　やすえ
吉成 安恵さん

1987年国際協力事業団（現在の国際協力機構）に入団。主に、国内事業部、人事部、インドネシア事務所、アジア第一部、企画評価部等を経て、2011年から2015年3月まで宮崎大学国際連携センター准教授として出向。2017年に中国センター次長、2019年から2020年度まで人事部次長を歴任。2021年4月に九州センター所長に着任。大分県出身。

特集3 福教大生が世界で魅せた!

東京2020パラリンピック銅メダリスト 瀬戸勇次郎さんインタビュー

Interview with
Tokyo 2020 Paralympic
Bronze Medalist
Yujiro Seto

2021年夏、熱い感動を巻き起こした「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」。世界を相手に闘い、見事その手にメダルを勝ち獲ったアスリートが福岡教育大学に在籍しているのをご存知でしょうか。パラリンピック競技・柔道男子66kg級（視覚障害）の銅メダリスト・瀬戸勇次郎さんです。4歳で出会った柔道に小中高、大学と励み続け、21年に初めてパラリンピックに出場。アスリートとして世界の高みを目指しながら、福教大では特別支援学校の教員になる夢を追い続けています。柔道家と教員、2つの目標にチャレンジを続ける瀬戸さんの福教大生としての素顔に迫りました！

勉強と柔道を両立する大学生活

毎朝5時半に起床する理由とは？

――まずは学生生活について聞かせてください。教員を目指す勉強は教員採用試験という明確な目標もあり、それだけでも大変という声を福教大生からよく聞きます。真剣に柔道に打ち込みながら日々の勉強をどのように両立させてきたのでしょう。ベーシックな1日の生活サイクルを教えていただけますか？

瀬戸さん　3年生の頃は新型コロナの流行で大学が一時閉鎖されて遠隔？授業になったり部活動もできない時期があって変則的でした。1～2年生の頃でいうと1日のサイクルは部活動の朝練に始まって、その後は授業を受けて空いた時間に課題をこなし、夕方からまた練習して…という感じでしょうか。

――朝は何時くらいに起きるんですか？

瀬戸さん　朝7時から大学の道場で練習が始まるので5時半頃に起きます。大学の近くにアパートを借りているのでもう少し寝ていても間に合うんですが、自分は朝ご飯を食べないとからだが動かないタイプで…。前日の夜に炊飯器をセットしておいて、炊き上がった白いごはんと納豆、みたいな簡単なもので朝食をとってから練習に行きます。

朝練は遅くても8時には終わるので、授業が1時限からあるときはそのまま大学に残って授業を受けます。授業が2時限以降の日はいったん家に帰ってひと眠りすることも。午後の練習は16時半～19時くらいまで。終わったら家に帰って風呂に入って、課題を済ませて…と平日はだいたいこの繰り返しです。

――弱視についてよく知らないので教えていただきたいのですが、授業を受けるとき黒板の文字は裸眼で見えるのでしょうか？

瀬戸さん　人によって程度の違いはあると思いますが、自分の場合は単眼鏡といって、遠くを見やすくする道具を使っています。単眼鏡を使うと教室のいちばん後ろの席からでも黒板の文字が見えるんです。近いところを見るときは本などを顔に近づけて読みます。ほかの人より読むスピードは遅いかもしれませんが、特にストレスは感じないのでこの方法で教科書も参考書も通常の文字サイズのものをずっと使ってきました。

――出身高校は学区内トップの進学校（福岡県立修猷館高校）ですよね。昔から成績優秀でスポーツもできる、非の打ちどころがないように感じますが…？

瀬戸さん　え!?全然そんなことはないです……。いつも取りかかりが遅くて「これをやろう」と本気で決めてからでないと動き出せません。振り返ってみても、やっぱりやった分しかできていない。やったこと以上の成果は出せないんだと頭で分かっていても、結局また取りかかりが遅くてその繰り返しです…。

学区内トップの公立高校から福教大へ

進路を選ぶとき重視したこと

――教員を目指したのは何かきっかけがあったのでしょうか？

瀬戸さん　実はこれというきっかけは思い当たらないんです。親が教員というわけでもありませんし、中学生くらいの頃に自然と「先生になりたいな…」と思うようになって。ただ、特別支援教育を選んだのは自分の弱視としての経験や、当事者としての見方が子どもたちの助けになる部分もあるんじゃないかという想いがあります。

これまでたくさんの先生方にお世話になりましたし、出会った全ての先生が本当に尊敬できる方ばかりでした。そのまま高校時代

瀬戸勇次郎（せとゆうじろう）さん

特別支援教育教員養成課程
中等教育部 視覚障害児教育専攻4年

2000年生まれ、福岡県糸島市出身。生まれたときから弱視（右0.07、左0.05）を伴う色覚障がいをもつ。4歳で柔道を始め、高校3年の夏に視覚障害者柔道と出会う。21年8月パラリンピック（東京大会）に初出場し、男子66kg級（視覚障害）で銅メダルを獲得。福教大では特別支援学校教諭を目指して学び、この春卒業予定。

も目標が変わることはなく、福教大への進学を決めました。

――修猷館高校というと関東や関西圏の大学へ進学する方も多いと思いますが、どうして福教大を選んだのでしょうか？

瀬戸さん　高校を選ぶときは「学区内でいちばん偏差値が高いところを目指そう」という決め方だったんです。その学校に行って何を勉強する、どんな高校生活を送りたい、というような理由ではなくて。だから大学は「自分のやりたいことを勉強できるところ」という視点で決めようと思い、そうすると福教大が自分にとって最適なルートに見えてきました。地元が福岡なので県内にあるのも魅力でしたし、最後のひと押しで韓先生との出会いも影響したと思います。

――韓星民（ハン・スンミン）先生ですね。視覚障がい教育がご専門で、韓先生ご自身も弱視であり、視覚障がいのある外国人として初めて日本の国立大学（福教大）の教員になられた先生です。どんな出会いだったのですか？

瀬戸さん　初めてお会いしたのは高校２年生の終わりだったと思います。母が韓先生のことを知って、先生が受け持っていらっしゃる福教大生の卒論発表研究会を見学させていただいたんです。そこで先輩方の発表を聞き、韓先生にお会いしたことで、やっぱり福教大に行きたいと思いました。「面白い先生だよ」と話には聞いてはいたんですが、お会いして納得というか……パワフルでユニークな先生です。当時僕はまだ高校生で周りは視力に障がいがない人ばかりでしたし、同じ弱視の人に会う機会も多くはなくて、弱視の先生がいらっしゃるだけでも十分考えるところがありました。

不安もあった特別支援学校での教育実習

指導の先生から厳しい指摘も

――4年間の大学生活を振り返って、勉強面ではどんなことが特に印象に残っていますか？

瀬戸さん　いちばん勉強したなと思うのは教育実習ですね。特別支援教育（教員養成課程）の教育実習は本来なら附属学校と特別支援学校で1回ずつ行うんですが、視覚障がいのある学生への配慮として僕は2回とも特別支援学校で実習させていただきました。

実習前はとにかく不安で…。大学で指導案の書き方も勉強しましたし、授業のやり方も教わって模擬授業で練習もしましたが、教室で子どもたちを前にしたとき自分が通用するんだろうかと。実際とても難しかったです。1回目の実習では保健体育を担当しました。実習に行く前、学習指導要領を見直しながら授業内容をどうするか自分なりに真剣に考えたんですが、実習先の指導担当の先生に見せたら全部突っぱねられました……。

――どんな指摘を受けたんですか？

瀬戸さん　授業内容そのものに間違いがあったわけではないと思うんですが、「指導の仕方に工夫がほしい」と。先生は僕が柔道をしていることを知ってくださっていて、科目も体育ですし、そういう僕なりの経験をいかした授業を期待されていたんです。言われてみればその通りだなと思いました。

――厳しい指摘ですね。2回目の実習はどうでしたか？

瀬戸さん　2回目の実習先では「自立活動」を担当しました。自立活動というのは、障がいのある子が日常生活や学校生活などで感じる困難を克服・改善することを目的とする特別支援教育ならではの教科です。

――具体的にどんな指導をしたのでしょうか？

瀬戸さん　例えば、盲の高校生にタブレット型端末の操作方法を教えるという指導がありました。その子は光は感じられるんですが、タブレットの画面情報を読むことはできないので、情報を音声で読み上げる機能の使い方を教えるという指導内容でした。ただ、彼と話をしてみると単に操作方法が分からないのではなく、タブレットの便利さ自体をまだ実感していない様子だったんです。学校で指導を受けているから少しずつ使ってはいるけど「タブレットは便利だから」と積極的に使うまでにはなっていなくて。だから操作方法を教えるだけではなくて「タブレットってこういう場面で使うと便利だよね」という有用性を含めて指導する必要がありました。

――たしかにタブレットやスマートフォンはこれからの時代を生きていく子どもたちは使えた方が便利ですね。

瀬戸さん　はい、特に視覚障がいがある人にとって情報収集のツールとして使いやすいと思います。本などの印刷物と違って見えづらければ文字を拡大できますし、全く見えなければ音声に変換して文章を読み上げてくれるのはとても便利ですから。

――実習を終えてどんなことを感じましたか？

瀬戸さん　こういう場面ではこんなふうに工夫すればやりやすいとか、こういう道具を使う選択肢もあるよとか、自分だから指導できる部分があるかもしれないと改めて感じることができました。それから一人ひとり違うということも実感しました。大学では障がい種別で学びますが、実際に学校へ行くと障がいを複数あわせ持っている子も多いんです。視覚障がいに加えて発達障がいや知的障がいもあったり、からだを自由に動かせない子もいる。それぞれできることが違っても一緒に授業を受けることも少なくありません。例えば体育の授業をするとき、動きづらい子を基準に進めると動ける子が退屈してしまいますし、動ける子に合わせると動けない子は何もできなくなってしまう。そういう難しさは実習だからこそ体感できたことの一つでした。

――多くの先生方が「教員は一生学び続けなくてはならない」とよく仰いますが、その片鱗を感じられたんですね。

瀬戸さん　子どもはそれぞれで、様々な要因がからんだうえで実態があって、単純な一本の線ではかれるものではないんだと思いました。教科書通りにやれば正解というわけではない場合もありましたし、現場で感じて考えてやってみてもその判断や行動が本当に正しいかどうかも分からなかったり……。実習は3週間でしたが悩む

非常に落ち着いた指導は彼の強み

特別支援教育ユニット　**韓（はん） 星民（すんみん）** 准教授

ある療育の現場に学生たちと参加し、瀬戸君も同席して弱視の中学生の進路相談をしたことがあります。私が「彼は修猷館高校の出身ですよ」と瀬戸君を紹介すると、その子は「僕はあなたと違って頭が悪い。大変なことも多いし学校には行けない」と最初は拗ねた様子でした。瀬戸君はそんなことはないと言いながら同じ弱視者として親身になってアドバイスし、そんな交流を繰り返すうちにその子は定時制高校に進学し今では学校に通えるようになりました。指導教員をしながら瀬戸君が将来について悩む姿も見てきましたが、そのように非常に落ち着いた指導は彼の強みの一つだと思います。視力に障がいをもちながら教壇に立つ先生は全国にいらっしゃいますが、調べてもらったところ瀬戸君が目指している保健体育の先生はまだいないようでした。彼なら新しい職域を拓くこともできるはずです。パリ大会に向けて柔道もまだまだ頑張りたいでしょうし、大学院ではまた違った新しい進路が見えてくるかもしれない。チャレンジを続けながら自分の道を拓いていってほしいと思います。

ことの連続で、こんなに難しいことを一生の仕事としてやれるのか不安も感じましたし、自分が教員に向いているとは正直まだ思えません。それでも「自分にできることもたくさんある」と感じられる瞬間もあり、多くの気づきをいただきました。

新型コロナ、パラリンピック延期…

教員採用試験を先送りした迷いと決断

――瀬戸さんは今春、福教大を卒業されます。卒業後の進路について聞かせてください。

瀬戸さん　筑波大学の大学院への進学を考えています。また、今年は教員採用試験も受験する予定です。

――新型コロナの影響などなく2020年にパラリンピックが開催されていれば、21年に教員採用試験を受験して今春には教壇に立っている予定だったとか。予期せぬ大会延期で人生設計がずいぶん変わってしまったのではないでしょうか？

瀬戸さん　パラリンピックの1年延期が発表された当初はまだ予定通り教採試験も受けて、パラリンピックも頑張ろうと思っていたんです。試験の出願手続きをした頃は試験と大会の日程がどのくらい重なるかも分からなかったんですが、いざ日程が発表されてみるとパラリンピック終了の1週間後が二次試験の日程で。それでも最初は頑張れば受けられないことはないかな…と思ったんですが、大会後に隔離期間なく選手村からすぐに出られるのかも分かりませんでしたし、目指してきた大会なので柔道に専念したい思いもあって。最終的に教採試験は1年先送りすることに決めました。

――同じ頃に大学院への進学を考え始めたとか？

瀬戸さん　24年のパリ大会（パラリンピック）を目指しながら、新人教員として責務を果たしていけるだろうかと。柔道を続けながら、教員になるための準備も怠らず進められる道はないかと考えたとき大学院という選択肢が浮かんできました。僕は障がいのある人のスポーツに関連する分野に特に関心があるんですが、筑波大学にはその分野の研究施設があるのも理由の一つです。

なるべく早く教員になった方がその後もスムーズだろうとは思うんですが、もうしばらく柔道に打ち込みながら大学院でより深く学んで教員を目指しても決して遅いわけではないと思って。

――そうした「今何をすべきか」「どうしたいか」の判断を何度も繰り返しながら勉強と柔道を両立してこられたんでしょうね。教員の夢を追いながらメダリストになった事実に改めて感服します。ご自身では両方に情熱をかけ続けられる理由は何だと思いますか？

瀬戸さん　うーん……両方がやりたいことだからかなと思います。どちらかに専念すれば、選んだ方はもっと上まで行けるのかもしれない。でも、自分は柔道だけをやりたいわけでもないですし、教員になりたいというだけでもないんです。今後を考えるとき必ずしも両立が続けられるか不安に思うこともありますが、自分の性格というか…どちらかを取って、どちらかを諦めるということをしたくなくて。勉強と柔道が時期によって5：5から6：4や7：3に変わることはあっても、10：0にはしたくないという思いがあります。

教員への夢を追いながら

いろんな可能性を自分に残していい

――最後に、教員を目指そうと考えている高校生の皆さんに、先輩として福教大の魅力を教えてください。

瀬戸さん　福教大は周りに教員を目指す学生が多いので、志は高く持てるんじゃないかと思います。自分は特別支援学校の教員を目指していますが、教育という枠の中だけではなく、今の社会で問題になっていることを実習などを通してリアルに体感して学べた部分が多かった。これを読んでいる高校生は今まっすぐに教員を目指している方が多いと思いますが、大学にはいろんな人がいて、いろんな出会いがあって、新しくやりたいことが見えてくることもあると思います。教育という分野で専門性を身につけるには教育大は最適な場所だと思いますし、いろんな可能性を自分に残しながら興味を持ったことにチャレンジするのもいいのではないでしょうか。楽しく頑張ってほしいです。僕も大学院の入試、教員採用試験、パリ大会を目指してまだまだ頑張りたいと思います！

人望はあると言っていいんじゃないでしょうか

特別支援教育教員養成課程 中等教育部
知的障害児教育専攻4年
森芳（もりよし） 柾博（まさひろ）さん

勇次郎とは学科が同じで入学時からの付き合いです。僕らの学科は19人と小規模なこともあって皆わりと仲が良いんですが、先日、彼が卒論制作のためにクラスのグループLINEでシャトルランの参加を呼び掛けたんです。するとクラス19人中14人くらいが彼のために集まってきた。1本でもきついシャトルランを「3本走ってほしい」というなかなかの要望でしたが、その人数がサッと集まってくるので人望はあると言っていいんじゃないでしょうか。そんな勇次郎が世界で銅メダルを獲る姿を見たときはやっぱり嬉しかったし、改めてすごいと思いました。銅メダルを見せてもらい「おまえ、すげぇな！」と言ったら「だろ？」と照れ笑いで、そこはいつもの勇次郎でしたが。僕はトライアスロンをやっていてトレーニングや身体の調整、大会の成績などをお互いよく報告し合ってきました。卒業後は環境が大きく変わると思いますが、あのコロナ禍でも練習に励んでこられた彼なので大丈夫だと信じています。今度は金メダルを獲る姿を見せてくれるはず、応援しています。

1 第7回（令和3年度）学生ボランティア活動報告会を開催しました

本学における学生ボランティア活動は、学生に社会との接点を持つ機会を与えるとともに、教師をめざす上での教育実践力を育成することを目的に、教育の一環として位置づけられ、支援を積極的に行っています。令和3年度11月19日(金)に、第7回ボランティア報告会をアカデミックホールにて開催しました。今回の報告会は、本年度に発足した、学生の自主的な学びの組織「学生支援ネットワーク(COMES Net)」のメンバーによる学生の実行委員会にて、企画・運営・資料作成等の全てを行いました。

参加した学生からは、「ボランティア参加によって、教育実習の実りにつながっていくことがわかった」「子どもをよく知るためにボランティアに参加したい」といった感想が寄せられ、今後の活動に繋がる有意義な報告会となりました。

本学では、「学生支援ネットワーク(COMES Net)」の活動をバックアップしながら、学生全員の自主的なボランティア活動参加を目指して一層の充実に努めてまいります。

報告会の様子はコチラ▶

2 むなかた子ども大学に参加しました

令和3年11月14日(日)に宗像市主催による「むなかた子ども大学」に参加しました。本イベントは、グローバルアリーナ等において開催され、約250名の子どもたちの参加がありました。

本学は、「イラストレーターコース」、「画家コース」、「バイリンガルコース」、「エンジニアコース」の4つの講座を担当しました。子どもたちは意欲的に活動に取り組んでいました。

また、本イベントは、本学学生も運営スタッフ、装飾スタッフとして携わる等、多様な形でサポートを行いました。

本イベントを通じて、子どもたちが感じている「なぜ？」といった素朴な疑問や「やってみたい！知りたい！」といった意欲が、将来の夢につながっていくと期待しています。

本学学生制作の垂れ幕と装飾

3 令和3年度大学教員活動評価に関する表彰式を実施しました

本学では、令和3年10月11日(月)に、令和3年度大学教員活動評価の結果に基づいた学長表彰式を実施しました。

本学は「大学教員活動評価」として、教員が行う諸活動を、教育・研究・社会貢献・学内運営の4領域にわけて、毎年度、自己点検・評価を行っています。その総合評価が優秀であった教員から、学長が2名を選考し、表彰することにしており、令和3年度は、教職実践ユニットの本多 壮太郎教授、家政教育ユニットの貴志 倫子教授が選ばれました。

本多教授は、特に体育教育の分野において、教育・研究、社会貢献等に尽力していることが評価されました。

貴志教授は、家政教育、特に家庭科教育の分野において、教育・研究、社会貢献等に尽力していることが評価されました。

式では、本多教授及び貴志教授に、学長から学内運営への貢献に感謝するとともに「これからのますますのご活躍を期待しています。」として、表彰状と記念品が贈呈されました。

左から本多教授、飯田学長、貴志教授

4 令和3年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会を開催しました

令和3年9月27日(月)に、今年度1回目の会合となる「令和3年度九州教員研修支援ネットワーク第1回協議会」をオンライン会議により開催しました。

今回の協議会では、九州・沖縄の教員養成機能を有する大学の研究者、九州各県・政令指定都市・中核市の教育委員会関係者等約50名が参加し、「GIGAスクール構想の実現に向けたICT活用指導力の向上について」というメインテーマのもと、講演や実践報告、ワークショップ等を行いました。

参加者からは、「GIGAスクール構想の詳細について、改めて確認するよい機会となった(講演)」「熊本県の先進的な事例をお聞きし、刺激を受けた(実践報告)」「他県の教育委員会・教育センターの方、大学教授の方と交流する機会自体が前向きに考える材料となるものでよかった(ワークショップ)」等の感想が寄せられました。

今後も、ネットワークでは、教育課題を共有し参画機関の有する様々な専門的リソースを活かしながら、動画等コンテンツの開発等、教員研修の効果的・効率的な実施に向けた具体的な取組に努めていきたいと考えています。

実践報告の様子

5 タンザニア野球大会 “FUKUOKA CUP” の開催について

2021年9月6日～11日、小学生を対象とした大会ではタンザニア初となるFUKUOKA CUPが、ダルエスサラームのアザニア中学校内TANZANIA KOSHIENグランドで開かれました。開催にあたって、手洗い、マスクの着用等新型コロナウイルスの感染対策が呼びかけられる中、同大会にはダルエスサラーム市内の小学校8校が出場しました。

主催者のタンザニア野球ソフトボール連盟(TaBSA)は、大会名をFUKUOKA CUPとした由来について、これからも日本のように野球の振興に努めていきたいという想いと、2017年度から2019年度にかけて、福岡教育大学から野球の短期隊員が派遣されてダルエスサラーム市内の小中学校で指導した貢献を踏まえて命名したと述べました。

2017年度から3年にわたり、本学はJICA大学連携事業(スポーツ分野)に参画して、海外協力隊(大学連携)野球隊員として計21名学生を派遣しました。このように本学学生が蒔いた国際貢献の種が、今まさに芽生えようとしています。なお、本学は2021年6月に独立行政法人国際協力機構九州センター(JICA九州)との間で連携に関する覚書を結びました。今後もJICA九州と連携した国際協力事業を展開するとともに、国際理解教育や多文化共生社会の担い手を育てていきます。

大会の様子

6 令和3年度福岡教育大学未来奨学金授与式を実施しました

令和3年7月29日(木)に令和3年度福岡教育大学未来奨学金授与式を実施しました。

「福岡教育大学未来奨学金」は、学生の学業成績の向上及び海外留学を奨励することを目的として、平成24年度に創設され、後援会及び同窓会の寄附により成り立っている本学独自の給付型奨学金です。「福岡教育大学未来奨学金」には、「学業成績優秀者奨学金」及び「国際交流協定校派遣支援奨学金」の2種類があります。

今年度は、「学業成績優秀者奨学金」授与者20名、「国際交流協定校派遣支援奨学金」授与者3名でした。飯田学長、薄後援会副会長、太田同窓会会長からお祝いや激励の言葉が贈られました。

これを受け、学生の代表から感謝の言葉とともに「いただいた奨学金は、教員になるという夢の実現のために活用したいと思います。」と決意が述べられました。

授与された学生たち

教員紹介 & 学生から見た先生の魅力

教育心理ユニット
講師 熊木 悠人（くまき ゆうと）
出 身 地：茨城県
最終学歴：京都大学大学院教育学研究科博士課程
取得学位：博士（教育学）
本学着任：2017年

自分の好奇心にしたがって幅広い学びを。

専門の研究テーマ

専門は発達心理学です。大学院では、「有限の資源を他者と分け合う」行動を通して、幼児の公平感や親切心、互恵性（互いに助け合う関係）の発達について研究してきました。こうした研究は、福岡教育大に来た現在でも続けています。これまでは行動実験を主な研究方法としてきましたが、最近は、自然場面の観察から子ども同士の人間関係をとらえる研究にも取り組んでいます。

大学教員に進むことになったきっかけ

大学での勉強が好きで、卒業が近づくにつれ、もっとここで学びたいと思いが強くなり大学院に進学しました。就職活動をしたくなかったというのもあるかもしれません。所属した研究室では、世界の最先端の研究に触れたり、世界の第一線で活躍している研究者と議論したりする機会が日常的にありました。周りは優秀な人だらけで挫折もたくさん経験しましたが、その中で必死についてきた結果、現在の仕事にたどり着きました。

研究成果の教育への還元

大学生の皆さんには、最新の発達科学・発達心理学の研究の知見や考え方をお伝えすることで、子ども理解に役立ててほしいと思っています。日々の授業でも、「教師はどうすべきか」の前に「なぜ子どもはそうするのか」を考えることを大切にしています。そのほか、現場の先生方や小さい子を持つ保護者様向けの講演などを通して、研究の成果を子どもたちに還元することに取り組んでいます。

こだわりの物・考え・モットー

こだわりと言えるかわかりませんが、目標に向かってものごとを計画的に進めることが苦手で、その時々の興味や関心で動くことが多いです。例えば、旅行では事前に行き先やスケジュールを細かく決めることはせず、とりあえず現地に行ってみて、ふらふら歩きながら興味がもてるものを探します。学問に対する姿勢も同じで、面白そうだと思うことは特に目的がなくても学ぶようにしています。効率は悪いと思いますが、そのとき、その場にしかない出会いを大切にしています。

福岡教育大学で学ぶ学生に一言

大学生の皆さんには、多くの時間とエネルギーがあります。今のうちに、たくさんの寄り道、回り道をしてください。必要なことだけ、役に立つことだけではなく、一見無駄に思えることでも積極的に経験し、学んでください。人生のどこかで、きっと、その学びが活かされる時がきます。

研究に使用している資料

ゼミの様子

学生から見た先生の魅力

楠久 信稔（初等教育教員養成課程4年）

熊木先生は、見た目通りとても優しくてアットホームな雰囲気の先生です。先生の授業では、いろいろな例を交えながら、工夫をこらし人間の発達心理について詳しく教えて下さるのでとてもわかりやすいです。また、ルームでは、一人一人の相談に対して丁寧に対応して下さり、メールも丁寧に返信して下さる繊細かつ細やかな気遣いができる先生です。

熊木先生のルーム生

▲国語の授業

私の仕事

教師になって15年が過ぎようとしています。振り返ってみると毎日が充実していて、本当にあっという間でした。

私は現在、3年生の担任をしています。そして、校務分掌では、校内研修担当者として校内研究の提案をしたり、校内研修を計画したりしています。つい最近までは、若い教師として先輩の背中を追いかけていたのですが、今は、ミドルリーダーとして学校を引っ張っていく役割が求められています。学年や学校全体のことを考えて動くことを意識しています。

教師として大切にしていること

学生のみなさんは「なぜ福教大に入学しようと思ったのでしょう？今もその時の気持ちに変化はありませんか？」ニュースなどでは教師の多忙化が取り上げられて久しいですが、それ以上に子どもたちと一緒に過ごす時間にやりがいを感じています。

私が教師として大切にしていることが3つあります。

1つは、「1日に1回は必ず子どもと話す」ことです。どんなに忙しくても、ペンを置いて、子どもの顔を見て話す時間を取るようにしています。他愛無い会話から、子どもの状況を知り、距離を縮めるきっかけにしています。

2つは、「学び続ける」ということです。教師が向上心をもって学び続ける姿を見せると、必ず子どもたちも変わります。教師は、子どもの鏡です。

3つは、「子どもと共に楽しむ」ということです。教師には、「人を育てる」という重責があり、プレッシャーも大きいです。しかし、こんなに泣けて、こんなに怒れて、こんなに笑える仕事は他にはありません。子どもたちは、教師の予想をはるかに超える力をもっています。そんな子どもたちと過ごす毎日を思いっきり楽しめることがこの仕事のやりがいだと思います。

▲メンタリング研修の様子

教職を志す学生のみなさんへ

世界的パンデミックとなった「コロナウイルス感染症」まだまだ先が見えない状況が続いています。この2年間で、学校も大きく変わりました。できないことが多く、もどかしい思いもしてきましたが、こんな時代だからこそ、気付かされることも多かったと思います。学生のみなさんも全てを思うようにはできず我慢を強いられた日々が続いたのではないでしょうか？しかし、その一方で、友達と会い、気軽に会話ができる喜びや、日常の何気ないことに幸せを感じることも多かったのではないでしょうか？

そんな経験をしてきている学生のみなさんだからこそ、相手の気持ちを考えたり、様々な状況でも自分なりに楽しむ方法を見出したりする力が身に付いているのではないかと思います。

教師はとてもやりがいのある仕事です。かわいい子どもたちが、皆さんが先生になることを待っていますよ。私たちOGも、みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

▲学級活動の様子

飯塚市立 小中一貫校 飯塚鎮西校
飯塚市立飯塚鎮西小学校
教諭　田中 由美（たなか ゆみ）さん
・初等教育教員養成課程 人文・社会コース
平成19年3月卒業

TOPICS

アンケートに答えて福教大オリジナルグッズをGET！

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見・ご感想をお寄せください。

アンケートにご協力いただいた方の中から**抽選で5名様**に**『福岡教育大学オリジナルグッズ3点セット』**をプレゼントします。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

こちらのフォームからご応募ください。

応募締切

令和4年5月31日（火）

＜アンケートにおける個人情報の取扱について＞
ご提供いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用致しません。

抽選で5名様に

福岡教育大学オリジナル
サインペン＆ボールペン＆メモ帳

表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、特別支援教育教員養成課程4年の瀬戸勇次郎さんに登場していただきました。

今後も、柔道選手としてだけでなく、特別支援学校の教員となるために邁進し続ける瀬戸さんに注目したいと思います。2024年のパリパラリンピックでは、今よりもさらに強くなって、金メダルを取ってくる姿を見せてくれると信じています。

福岡教育大学は、引き続き瀬戸さんを全力で応援しています。

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。
特に「修学支援事業基金」では、経済的理由により修学に困難がある学生が、希望する教育を受けられるように、
皆様からいただいたご寄付を、学生のために特化して活用します。
寄附をされる際に、「修学支援事業基金」と事業を特定してください。
広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ　福岡教育大学基金　検索

インターネット（クレジットカード払い）による寄付金の受付を開始いたしました。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課

TEL:0940-35-1210　FAX:0940-35-1701　E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

Campus Letter
キャンパスからの便り

後援会

「後援会だより」第84号発行のお知らせ

広報誌「後援会だより第84号」を12月に発行し、保護者へ送付しました。今号は就職支援・就職状況を中心に、教員採用試験や教育実習の体験談等を掲載しています。

後援会に対する皆様のご意見ご要望をお待ちしています。

福岡教育大学後援会 事務局
TEL・FAX：0940-33-8070
E-Mail：kouenkai@eos.ocn.ne.jp

学生支援課

学生の皆さんの自主的な学びを支援します！

前号（Joyama通信50号）で特集されているように、学生の自主的な学びの組織「学生支援ネットワーク COMES Net（かむず ねっと）」が発足しています。

COMESの活動の一つに「教育大の学生ボランティア活動の促進」もあります。令和3年11月19日に開催された「第7回学生ボランティア活動報告会」も、COMESメンバーが企画・運営しました。（写真）企画型の「創り出し、つなぐボランティア活動」ですね。

COMESに参加してボランティア活動を深め広げたい学生の皆さん、学生センター7番窓口（学生支援課ボランティア担当）にお気軽に相談に来て下さい。

学生の実行委員会の企画・運営による「学生ボランティア活動報告会」（2021.11.19）

同窓会城山会（じょうやまかい）

ウィズコロナの同窓会活動

同窓会城山会では今年度も新型コロナ感染防止のため、定期総会をはじめ多くの対面による行事を中止し、通信によって会員の絆を堅持しようと努めてきています。そうした中、10月中旬からは感染者が激減してきていることを受け、県内8つの地区毎の「拡大支会長会」に限っては参加人数を絞った上で実施する運びとなりました。

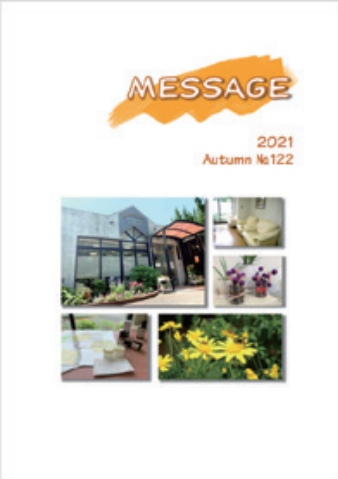
会議では、地区内各支会の情報交換の中で、学生・新卒・若手会員情報交換会の開催方法、大学基金への寄附の促進等が協議されています。

福岡教育大学同窓会　城山会事務局
TEL・FAX：0940-33-2211
E-Mail：jouyamakai@able.ocn.ne.jp

健康科学センター

MESSAGE No.122 2021 秋号

今回の内容は、「熱中症」、「私のリフレッシュ法～香り～」、「イメージ療法の恩恵」、「自分の感情を絵にしてみると」、「身体を整える」、「ちょっとだけ体を動かす」など盛りだくさんです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP

Joyama 通信 vol.51

福岡教育大学広報誌第51号 2022年3月7日
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192　宗像市赤間文教町1-1
TEL.0940-35-1205　FAX.0940-35-1259
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp
ホームページ: https://www.fukuoka-edu.ac.jp/

福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

大学HP　Twitter　YouTube

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。